

小児手術・集中治療部

1. スタッフ (平成29年4月1日現在)

部長(兼・教授) 竹内 護
 小児集中治療部長(准教授) 多賀 直行
 病棟医長(助教) 大塚 洋司
 医員(学内准教授) 門崎 衛
 (講師) 片岡 功一
 (助教) 大塚 洋司
 病院助教 永野 達也
 岩井 英隆
 橋木 浩平
 シニアレジデント 1名

2. 小児手術・集中治療部の特徴

小児手術・集中治療部は、2006年9月とちぎ子ども医療センターの開院とともに開設され、手術部門と小児集中治療部門の両面を持つ中央診療部門である。

手術部門は、清浄度クラス1000の手術室とクラス10000の手術室各1室の計2室で構成され、現在、小児・先天性心臓血管外科、小児外科、および小児泌尿器科の手術が行われている。

小児集中治療部門は、栃木県および周辺医療圏の重症小児患者を収容し、関連診療科と連携して集中治療およびその看護を行い、回復を図ることを目的としている。小児集中治療室(PICU)は、感染症対応可能な個室ベッド2床を含む8床のユニットとして運用されている。本PICUの特色として、先天性心疾患の外科的治療を周術期管理の面から全面的に支援していることである。麻酔・集中治療医と小児・先天性心臓血管外科医、小児循環器医が密接に連携して、新生児から年長児まで幅広い年齢層の先天性心疾患患者の診療、周術期管理にあたっている。

また、先天性心疾患以外の外科的疾患患者の周術期管理や、内科的疾患を持つ重症患者の集中治療も、関連各専門科と密接に連携を取り、限られた病床数の中で効率よく安全に診療を提供できるように鋭意努力している。

・施設認定

日本麻酔科学会認定病院
 心臓血管麻酔専門医認定施設
 日本集中治療医学会専門医研修施設

・専門医等

(社)日本麻酔科学会指導医 竹内 護
 多賀 直行
 門崎 衛
 大塚 洋司

(社)日本麻酔科学会専門医

永野 達也

岩井 英隆

(社)日本麻酔科学会認定医

橋木 浩平

他 2名

厚生労働省麻酔科標榜医

竹内 護

多賀 直行

門崎 衛

他 6名

日本心臓血管麻酔学会専門医

多賀 直行

同(暫定)

竹内 護

門崎 衛

日本集中治療医学会専門医

竹内 護

多賀 直行

大塚 洋司

日本救急医学会専門医

永野 達也

日本小児科学会専門医

片岡 功一

日本小児循環器学会指導医

片岡 功一

日本周術期経食道心エコー認定医

多賀 直行

大塚 洋司

岩井 英隆

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 手術・検査等全身麻酔数(2016/1/1-12/31)

小児・先天性心臓血管外科	155例
小児外科	349例
小児泌尿器科	170例
小児科全身麻酔下内視鏡検査	26例
小児心臓カテーテル検査麻酔	64例
(経皮的心房中隔欠損閉鎖術18例含む)	
MRI検査麻酔	15例

合計 779例

2) PICU入室患者数(2016/1/1-12/31)

小児科	132例
小児・先天性心臓血管外科	103例
小児外科	37例
小児脳神経外科	19例
移植外科	11例
小児整形外科	5例
形成外科	16例
小児耳鼻咽喉科	3例
小児泌尿器科	4例
歯科口腔外科・他	2例

合計 332例

3) 死亡症例

死亡症例	6例 (院内死亡率1.8%)
------	----------------

4) 主な処置

人工呼吸	170例
ECMO・PCPS	3例
血液浄化	3例

5) 病床利用率など (2016/1/1-12/31)

病床利用率	83.1%
病床稼働率	94.4%
平均在院日数	7.3日

4. 2017年の目標・事業計画等

手術部門では、全身麻酔件数も手術室外麻酔の件数も、いずれも昨年よりさらに増加している。経皮的心房中隔欠損閉鎖術の麻酔件数も増加しており、今後もより安全に全身麻酔・手術室外麻酔を提供・運用できるように最大限努力したい。

PICU部門では、重症度の高い患者の入室数が増加し、同時に全体の入室患者数も増加している。難易度が高く侵襲の大きい手術を受けた術後患者も依然として多い。周術期管理のさらなる充実を図り、院内外より搬送された重症患者の治療に貢献できるよう今後も努力を続け、患者の安全を第一に考え、良質な医療の提供に努めたい。特に昨年からのPICUですべての周術期管理を行うことになった小児生体肝移植に関しては、本館ICUのノウハウを引き継ぎ、安全な周術期管理を提供できるよう努力したい。

対外的には、日本集中治療医学会あるいは小児集中治療連絡協議会が主体となって行う日本国内PICUの現状調査などに参加している。これらの活動を通して国内他施設との交流を深め、職員の臨床能力向上につなげたい。また小児集中治療連絡協議会では、今後各施設のPICUにおける患者重症度や予後についての全国的なデータベースを構築する計画があり、当PICUもその計画に参加協力する予定である。